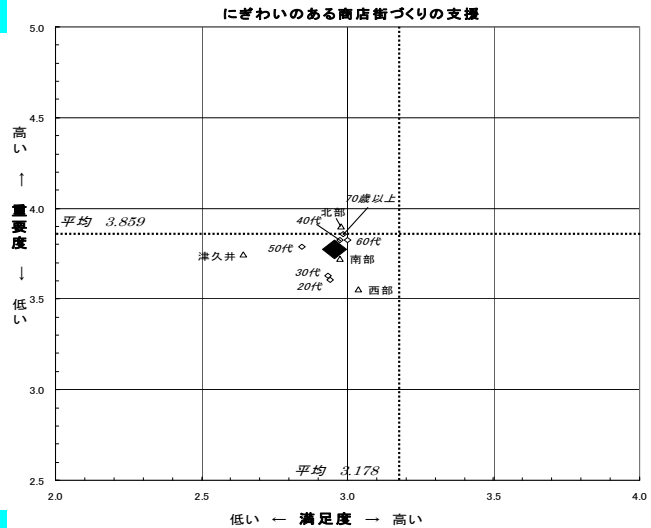




#### 4 市民満足度調査結果(平成20年度実施分)

○この施策の満足度は2.956で121施策の中で115番目。  
 ○重要度は3.771で75番目である。  
 ○改善要望度は0.0947で45番目である。  
 ○年齢別にみると、満足度は60代で最も高く、50代で最も低くなっている。重要度は70歳以上で最も高く、20代で最も低くなっている。  
 ○地区別にみると、満足度は西部で最も高く、津久井で最も低くなっている。重要度は北部で最も高く、西部で最も低くなっている。



#### 5 1次評価(2つの視点から評価を行う)

視点の種類	評価基準・着眼点	評価点	H18評価点	前回(H18)評価結果との比較分析
有効性	各事業が果たす施策に対する目標の達成度合いを把握し、効果の高い事業を実施している	4 (2) 1	4 (2) 1	
市民満足度	市民満足度調査により市民ニーズを把握し、市民の立場に立って事業展開している	4 2 (1)	4 2 (1)	
合計		3		評価結果に基づく区分(2項目の合計点数による) A(6点以上) B(5点・4点) C(3点以下)
				1次評価 C

\*Aは、良好、Bは、事務事業の見直しが必要、Cは、事務事業を統合・廃止の方向

#### 6 課題と解決策(現状または、評価結果から)

課題	①商店街の担い手の高齢化や商店の経営不振による後継者不足 ②個店や商店街に加入する店舗の減少による商店街組織の弱体化 ③原油高騰に伴い商店街の街路灯電気料が値上がりし、商店街の運営上、大きな負担が生じている
解決策	①商店街担い手講座の開催により、商店街の担い手の育成に努めるとともに、アドバイザーの活用や地域連携事業等により顧客を増やすことで、商店経営を安定化させ後継者を増加させる。②商店街ににぎわいづくり支援事業等により商店街への加入を促進する。③街路灯の電気料金補助について、街路灯の公益性や自治会が設置する防犯灯(補助率90%)と商店街の街路灯(補助率70%)との役割の違いを踏まえ、街路灯の電気料金の補助率見直しを行う。

#### 7 2次評価及び意見(1次、2次で評価に相違がある場合など、必要に応じて意見を記入)

客観的に成果を測定できる指標設定を行う必要がある ⇒指標4「平日の通行量」の指標は、客観的な成果指標と考えている。	2次評価 C
--	-----------

\*Aは、良好、Bは、事務事業の見直しが必要、Cは、事務事業を統合・廃止の方向

#### 8 3次評価及び意見(評価結果及び課題・解決策について、必要に応じて意見を記入)

本施策の成果が測れる指標「整備した商店街の販売額」や「整備後の商店街の乗客数」などを把握し、事業実施の前後で測定すること。	3次評価 C
---	-----------

\*Aは、良好、Bは、事務事業の見直しが必要、Cは、事務事業を統合・廃止の方向

